

インディアナ日本語学校便り

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成



中学部 1 年生



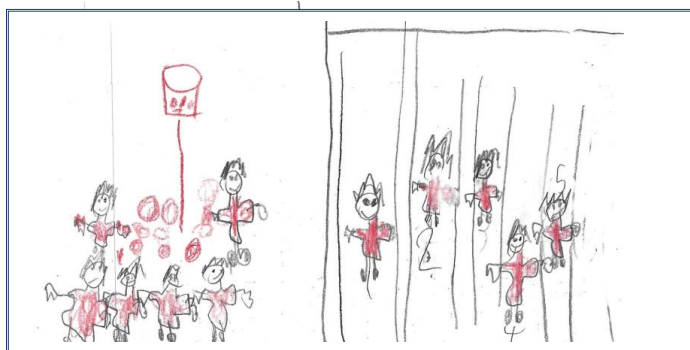
中学部 1 年 1 組



中学部 1 年 2 組

運動会絵日記

小学部 2 年 1 組

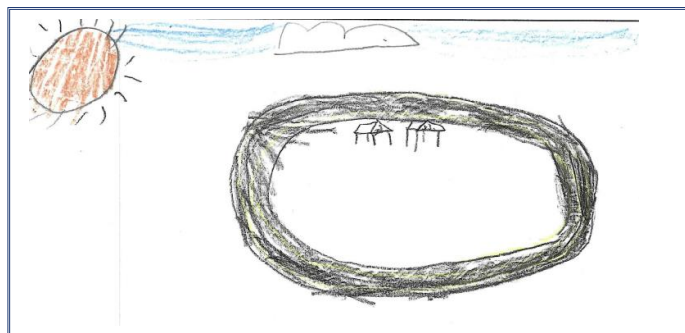


中野 幹太

ぼくが、うんどう会でがんばったことは、60メートル走です。ぼくは、ころばないように走りました。一いをとってうれしかったです。つぎに、玉入れです。いっきに4つなげたら入りました。さいごかってうれしかったです。

田路 虎之介

うんどう会はさいこうでした。うんどう会があんなに楽しいとは思いませんでした。ぼくが一番楽しいと思ったのは、60メートル走です。大玉ころがしやトルネードせん風もとても楽しかったです。そして、玉入れはちょっとドキッてしましたが、かってうれしかったです。リレーを見るのもドキドキしました。また来年が楽しみです。





宇津木 恵

うんどう会は、たくさんうんどうできるから大好きです。わたしのすきなうんどうは、玉入れです。たくさん玉を投げました。いっぱい入ったかな？楽しかったです。先生、ありがとう。

小学部 2 年 2 組

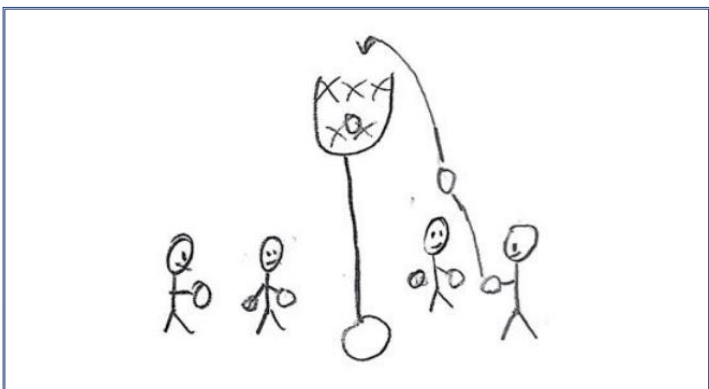


藤尾 里咲子

まず、はじめにラジオ体操をしました。わたしたち二年生は、六十メートルそう、トルネードせんぷう、大玉ころがし、玉入れ合せんをみんなでがんばりました。六十メートルそうでは力いっぱいはしりきることができてよかったです。白チームはまけてしまったけど、クラスのみんなど力合わせてがんばったので、よい思い出になりました。そして、かぞくや友だちと食べたおべん当はすごくおいしかったです。また、三年生もがんばりたいです。

水澤 玄

ぼくは、うんどう会で玉入れを一番がんばりました。白ぐみがかちたかったと思ったからです。クラスみんな一生けんめい玉をバスケットになげ入れました。まけてしまったけど、がんばったので、楽しかったです。



堀友 優衣

九月十七日土曜日に日本語学校のうんどう会がありました。わたしはうんどう会でかけっこ、トルネードせんぷうと大玉ころがしと玉入れをしました。一番楽しかったのは、大玉ころがしです。一番にが手だったのは、かけっこです。あつかったけど楽しかったです。



「お医者さんの仕事」 5 年 1 組 鈴木 大翔

ぼくは、鈴木結香子さんに「医者」という職業について質問をしました。結香子さんは、兵庫県で生まれましたが、今はアメリカに住んでいて、子供が四人いるそうです。

今、コロナウイルスが世界中で流行っています。そこで、たくさんのお医者さんが活やくしているということを知りました。結香子さんは二〇〇一年から医者として働いているそうです。結香子さんが医者になったのか聞いたところ、人のために役に立ちたいと思ったから、という理由だと教えてくれました。医者の仕事については、楽しいけれど、大変なこともある、と言っていました。例えば、一週間に四十五時間働かなければいけないこと、それを子育てもしながらやらなければいけないのが大変だそうです。でも、毎日、じゅう実した生活で、六十五才までがんばって仕事を続けたいそうです。

ぼくは結香子さんの話を聞いて、医者は毎日、人の命を守ってくれる大切な職業だと思い、医者に感しゃしたいと思いました。

「お父さんと仕事」 5 年 2 組 大森 啓由

ぼくのお父さんはスバルという車会社で働いています。お父さんがこの会社で働き始めたのは、今から 18 年前の 2004 年でした。

お父さんは車が大好きでした。そして、その車への愛が車会社に入ることへとつながっていききました。お父さんは会社で、物流プランニングという仕事をしています。物流プランニングとは、パーツの流れを考えることです。

物流プランニングという仕事でいいことは、世の中の色々なやり方がみられるということで、だれもやったことのないことができるから楽しいと言っていました。

ぼくは車が好きで、特にダブュリユーアールエックスというスバルの車が好きです。いつかスバルで働いてこの車をつくってみたいと思いました。だからぼくはスバルの社員のお父さんにインタビューをしました。そしてインタビューをしてぼくのお父さんはすごく複雑な仕事をして頑張っているのだなと思いました。

運動会の俳句・短歌 高等部

井村 亮介 紅葉萌え 僕らも燃えた 体育祭 高一	大狭 間暖 運動会 リレーのアンカー 任された 全力疾走 先輩速すぎ 高一	田上 陽翔 バトン継ぎ 輝ひかる汗 全力疾走 高一	梅村 彩音 青空と エールの看板 美しい 高一	麻場 理未 運動会 日陰を探す 休み時間 高一	中野 元太 空青く 日に照られし 若者の 汗が輝き 体育の秋 高二
--------------------------------------	---	---------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---

片岡 汰一 秋を告ぐ 小中高の 大歓声 空白二年も 感じない熱 高二	グリグーティス晶子 秋晴れに 心ひとつに 運動会 高二	吉村 泉希 盛り上がる 暑さの中で 決まる点 高二	川合 瑞希 玉入れで ようやく入った 一点分 高二	川合 優希 初めての 運動会で お手伝い 高二	森美 唯菜 追いかけた 大きな背中の 高校生 そんな存在 なれていたかな 高二
--	---	---------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---

新一万円札の人物 晩年(ばんねん)



渋沢栄一亡くなる前年 1930年12月 人々のために

渋沢栄一は90歳を迎え、かぜをひいて自宅で寝込んでいました。そのため、医者が^{おうしん}往診に来ていました。その栄一の家で、社会福祉事業に取り組む約20人が、話を聞いてほしくて^{ちんじょう}陳情に訪れました。理由は、不況が^{しつぎょうしゃ}悪化し、失業者や^{びんぼう}貧乏になる者が続出し、生活に困っている人々がたくさんいたからでした。その人たちを救うための「救護法」を政府に^{ちんじょう}陳情しましたが、話は一向に進まず、策が^{さく}無くなってしまいました。そこで、最後の頼みとばかりに「救護法」の成立に力を貸してほしいと、渋沢栄一を頼ってきたのです。

家族は栄一の体調が優れない事を案じて、面会を止めたものの、栄一は面会に応じます。なんと、この話に栄一は考える間もなく即座にこの願いを聞き入れ、すぐに車を用意させ、大蔵大臣と^{おおくらだいじん}内務大臣に面会を申し入れる電話をかけさせます。

高齢の渋沢栄一を案じた両大臣は、迎えを送ると申し入れたものの、渋沢栄一はこれを「こちらからお願いす

る件なのだから、こちらから^{まい}参ります。」と断ってしまいます。

栄一が出かけることを聞いた医者や家族は驚き、「^{かぜ}風邪を引いている状態で外出などしたら、命に関わる。」と言って必死に止めました。しかし、栄一は、「この老体がふだんから^{あんせい}安静にしていたのは、こうした時に役に立ちたいからなのだ。これが元で私が死んだとしても、それで20万の人々が救われるのであればそれは望むところである。」「いくら年をとっても、人間を^{じしよく}辞職するわけにはいかん。」と言ってそれを聞き入れ



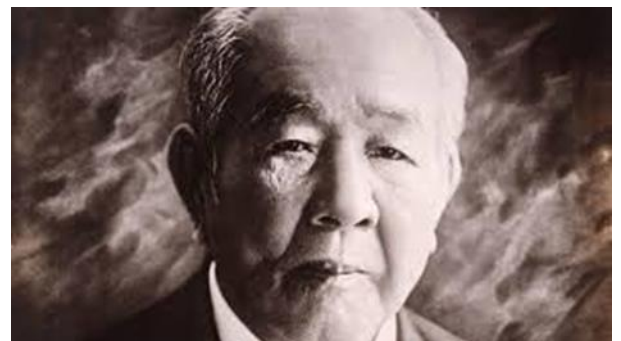
渋沢栄一像（埼玉県深谷駅前）

ませんでした。この言葉を受けては、家族も医者も栄一を止める事は出来ませんでした。

渋沢栄一の、人間である以上は、何らかの形で社会に役立つ存在でありたいという強い、深い思いが伝わってきます。

【渋沢栄一の死因】

それから約1年後の昭和6年1931年11月11日、渋沢栄一は91歳の生涯を閉じました。死因は「^{しいん}直腸がん」だったと言われています。葬儀当日、東京の^{あすかやま}飛鳥山の渋沢の家から青山斎場までの沿道には、多くの人々がずらりと列をなしてその死を惜しみました。その後も、様々な企業、施設、学校などで追悼会がたくさん開かれたそうです。それだけ多くの人たちに影響を与えていたといえます。



名言 四十、五十は湊^{はな}垂れ小僧^{こそう}、六十、七十は働き盛^{さか}り、九十になって迎え^{むか}が来たら、百まで待てと追い返せ。



名言 死ぬときに残す教訓が大事なのではなく、生きている時の行動が大事なのだ。

名言 人は死ぬまで同じ事をするものではない。理想^{りそう}にしたがって生きるのが素晴^{すば}らしいのだ。

名言 もうこれで満^{まん}足^{ぞく}だという時は、すなわち衰^{おとろ}える時である。

【お知らせ】

○〈漢字検定〉10月29日 ※漢字検定を受検の場合、バスの利用はできません。

○11月の予定】

11月5日 避難訓練

11月19日 中学部期末テスト 高等部弁論大会

11月26日 学校 休み サンクスギビング

○「令和5(2023)年度用 転出予定に関する調査」を配布いたしました。

あくまでも現時点での予定ですので、提出後変更が生じても構いません。ご協力よろしくお願いします。

本日の配布物

・令和5(2023)年度用 転出予定に関する調査